

K社長が倫理法人会に入会し、純粹倫理を学び始めて十カ月経ったときのことです。研修に参加した際、講師から「自分自身を大切にすることとは何だと思えますか？」と質問を受け、返答に窮してしまいました。

「さて、自分自身を大切にすることは何だろうか？ 栄養のある食事をしっかりとることかな？ はたまた睡眠をとることだろうか？」と思索していたところ、その講師は『万人幸福の葉』第十六条に書いてありますよ。百十一頁を開いてみてください」というのです。

そこには「最も己を大切にすることは、自己の個性（たち）を、出来るだけのばして、世のため人のために働かすことである」と記されていました。何度となく読んでいる箇所にもかかわらず、「そうなのか！」と金槌で頭を叩かれたような衝撃を受けました。

さらに、その後の文章に「己の、大きな向上、躍進、完成は、己を空しくすることである、身をささげることである。ここに必ず真の幸福が添うのである」と記されているのをまじまじと眺め、自身の心境と大きくかけ離れていることに愕然としたのです。

当時、会社の経営は順風満帆。K社長の打つ手がどれも見事なほど当たり、快調に業績を伸ばしていました。

当時の心境はどうかといえば「どうだ俺はすごいだろ、経営の天才だな。よし、この能力をもってして、さらに俺だけでもっともっと儲けてやるぞ」といったものでした。

しかし「世のため人のため」「身をささげる」といった第十六条の文言に対し、「自分さ

世のため人のために 人の喜びがわが喜び



え儲ければよい」といった相反する心境・行動をとっている自分が情けなく、このままでは駄目だ、本腰を入れてもっと純粹倫理を学び、実践しなければいけない」と大きく心を入れ替えるきっかけとなったのです。

それからというもの、経営者仲間から「アドバイスを受けた」「助けてほしい」といった頼みごとには、快くすぐに応じるようになりました。そして、企業理念の作成方法、組織づくり、時間管理、営業ノウハウ、トーク術等、自分が持ちうる知識は何でも惜しみなく人に与えたのです。

その結果、アドバイスを受けた幾人もの経営者が劇的に業績を向上させていきました。こうした変化を間近で見たり、後日報告を受けたりし、K社長は自分のこと以上に喜びを感じる事ができたのです。

『万人幸福の葉』第十六条、百十二頁の「人の喜びが、まことのわが喜びである」とは、このようなことをいうのかと感慨深いものがあったそうです。

K社長の卓越した経営センスは自身の努力はもちろんのこと、親から受け継いだ才能や、人生でかかわってきた人々からの学びも少なからず影響していることでしょう。そうして磨かれた「個性」を世の人々に還元することは恩返しといえるかもしれません。

自社の発展だけ、自分の利益だけを求める人が溢れかえると、世の中は荒んでしまうでしょう。つながり合っている世界、世のため、人のために生きていくことで、必ず良い世の中が切り拓かれていくはずですよ。